令和３年度

研修集録

第３３号

秋田県立新屋高等学校

巻頭言　　**秋田県立新屋高等学校　校長　根　義鎮**

「ＩＣＴ活用元年」このように言っても過言ではない年だったと思う。巷では会社等のＩＣＴ化の進展はもちろんのこと、個人においてもほぼ１人１台が所有しているであろうスマートフォン活用によって、インターネットへのアクセスやデジタル通貨等の電子マネーを使用しての決済など、ＩＣＴ化が着実に進む中、学校は未だにアナログ的な授業が展開され、取り残された感があった。ただこのような状況でも不便を感じなかったことも事実で、それ故に遅れたことも否めないと思う。奇しくも未だ収束を見ない新型コロナウィルスの蔓延のため、学校のＩＣＴ化が急激に進むこととなった。国のＧＩＧＡスクール構想により、生徒１人１台のタブレット端末が配布され、ホームルームには電子黒板が配置。それを活用した授業が展開されるようになった。今までもゆるやかではあるが教師の一部ではＩＣＴ機器を活用した授業等が展開されていたが、今年度に至って急激に全ての教員がそれを活用して授業を行わなければいけない状況となった。内面的には大きな変革ではないとしても、外面的には非常に大きな変化であると認識している。それぞれの教師が試行錯誤しながらこのツールを活用し、授業展開がなされた１年間であった。今後はツール活用が洗練され、様々な活用方法が共有されていくものと思われる。

今年度の授業での重点指導事項は「批判的思考力の育成」とし、１年間それを意識した授業を展開してもらった。「批判的思考力」とは「よく考えて判断し、意思決定すること。他人の意見を正確に受け止め、理解を深めながら建設的な態度で話し合い、最善策、解決策などを引き出そうとする考え方・姿勢」を指している。昨年度の生徒の学習活動に臨む姿勢等を観察し、この力が不足していると感じた。また、業者による検査でもこの力の弱さが指摘されていたための設定である。そして、その指導の成果を見ることを含めて、互見授業週間を設け、他の授業を参観し、その優れた点も共有した。互見授業では、ＩＣＴ機器の活用方法についても研修目的とし、他の教師の活用法を見ることによって、新しい活用方法を得ることができたと思う。それが、自身の今後の授業への一助となったことであろう。

オンライン授業に関しては、関係部署を中心にＭｅｅｔを使用して接続実験を実施し、確実につながることを確認している。万が一休業になっても、授業自体はオンラインにより実施できる準備が整っている。（そうならないことを願っているが・・・。）研修とは直接関係しないが、導入されたＩＣＴ機器を大いに活用するという意味で、また、新型コロナウィルス感染予防対策として集会等をリモートで行うことも実施している。

令和７年度大学入学共通テストからは、教科「情報」も出題されることとなった。もはや学校もＩＣＴ活用から逃れられない状態となっている。生徒を含め教員もこのＩＣＴ化の波に飲み込まれることなく、サーフィンのごとく颯爽と乗りこなしてもらいたい。

目　次

巻頭言　　校　長　　根　義鎮　…1

Ⅰ　研修講座（秋田県総合教育センター　B 講座）

B-１「各教科の指導における言語活動の充実」

理　科　　阿部　大輔　…3

B-12「情報教育推進講座」

情 報 科　　佐藤　博之　…5

B-17「生徒指導推進研修講座」

生徒指導部　　前田　真　…7

Ⅱ　授業改善推進プロジェクト

・前期校内研修

「対話を通した探究的学びを促す授業（展開）の工夫」

ベネッセコーポレーション　…9

・後期校内研修

互見授業研究会　　企画研修部　…10

・総合的な探究の時間

「３年間の指導記録」　　探究委員会　　神居　正暢　…18

・その他

職員小論文研修会　　進路指導部　…25

Ⅲ　令和３年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

・第１回　授業研究会　…27

・第２回　授業研究会　…31

Ⅳ　研修報告

国 語 科　　大関　由理　…34

B-1　各教科における言語活動の充実　受講報告

新屋高校　阿部大輔

【１】言語活動が求められる背景

①学力の国際的な動向の変化

②国内外の学力調査の結果

③H19　学校教育法の改正

⇒３つの背景より「言語活動の充実」が学習指導要領においても掲げられた。

【２】学習指導要領における「言語活動」の扱い

(１)各教科等における言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である。

(２)言語活動の基盤は国語であるが、全ての教科で取り組まれるべきもの。教科横断的に言語活動に取り組むことで、効果的な思考力判断力表現力の育成に繋がる。

(３)思考力判断力表現力向上に向けて、次のような活動が求められている。

① 体験から感じ取ったことを表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

④ 情報を分析・評価し、論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

［ポイント］

言語活動の充実（ツール）　→　思考力判断力表現力の向上、主体的対話的深い学びの実現へ（ゴール）

□横浜国立大学　高木展朗先生より

①主体的な学びとは・・・

・学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

・子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりする。

②対話的な学びとは・・・

・子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」

・身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るために、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていく。

③深い学びとは・・・

・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

【３】「言語活動」の設定ポイント

①手立てとしての言語活動→言語活動を通して資質能力の育成へ

＊秋田の探求型授業と言語活動を参考に

②教科の特質を活かす

③思考力・判断力・表現力を育む

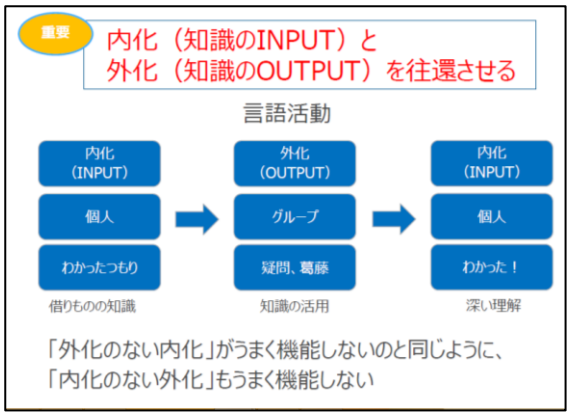
→アウトプットを重視した授業づくりが良いのでは？

④長期的な見通しを持ち、繰り返す　←人は忘れる生き物である

年間指導計画　単元の指導　１時間単位の指導

→長期的な視点にたって計画的に設定していくこと大切。

⑤言語活動は評価の直接的な対象としない。＊言語活動の質的変化を長期的に観察できれば良い研究となる。



【４】今後に向けて～クリティカルシンキング(批判的思考力、複眼的思考力)の観点で～

［学校教育目標］

１、心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指す

２、本校の校訓「自尊」「自知」「自制」の精神を生かした自己実現を目指す

３、社会の幸福に貢献できる有為な人材の育成を目指す

［現状の姿］

基本的には真面目。ゴールが分かれば頑張れる。しかし自分で課題やゴール設定できない傾向あり。

自己肯定感が高くない。積極的なチャレンジや新しい発想などが生まれにくく、クリティカルシンキングが高くはない。

［必要と考えた取り組み］

(１)異質集団・異年齢との関わりを増やし、複眼的な思考を育む。

［批判的思考力(複眼的思考力)］

(２)体験活動や社会と接続する機会を増やし、学びと社会との関連性の実感を促す。

［学びに対する態度］［批判的思考力（複眼的思考力)］

(３)前例踏襲ではなく、１つ１つのアクションの目的を確認し、減らすべきは減らす！

［批判的思考力(複眼的思考力)、創造的思考力］

＊今回の講座資料は次のフォルダに入れております。ご活用ください。

Gyoumu26>研修部（公開）＞13【センターABC 講座】＞R03

B-12　情報教育推進研修講座　受講報告

教諭　佐藤　博之

授業で ICT を活用するために

秋田県学校教育の指針

ICT を活用した教育の推進　重点事項

① １人１台端末の環境を生かした、学びの質を高めるための ICT 活用の推進
② 組織的・計画的に取り組む情報モラル教育の充実
③ 各学校段階を通じたプログラミング教育の推進

学びの質を高めるための ICT 活用

① 「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活用できる場面の設定
② 各教科等の特質に応じて、「主体的・対話的で深い学び」につなげるための効果的な活用
③ 教科等の学びをつなぎ、社会課題等の解決や児童生徒の夢の実現につながる活用

組織的・計画的に取り組む情報モラル教育の充実

① 実態に応じた指導の推進
② 児童生徒への指導の工夫
③ 学校・家庭・地域の連携

教員に求められる ICT 活用指導力

① 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力
② 授業中に ICT を活用して指導する能力
③ 児童生徒の ICT 活用を指導する能力
④ 情報モラルなどを指導する能力
⑤ 公務に ICT を活用する能力

ICT の活用

授業が変わる　→　授業を変える

・ICT 機器を活用した授業の合理化。学習内容の充実と深化を図る。

公務の情報化の目的は「業務の軽減」「教育活動の質の改善」の２つ

次の３点を通して教育の質の向上を目指す

・情報教育の推進
　＝子どもたちの情報活用能力を育成
・教科指導における ICT の活用
　＝教科の目標を達成するための効果的な ICT 機器の活用
・公務の情報化
　＝教員の事務負担の軽減　⇒　子どもと向き合う時間の確保

授業改善につながる ICT 機器の活用（５つの視点）

①　指示を明確にする場面で活用する。
②　モデルを提示する場面で提示する。
③　情報を共有する場面で活用する。
④　繰り返しによる定着を図る場面で活用する。
⑤　子どもの意欲を高める場面で活用する。

情報に関する責任

教育公務員として配慮しなければならないこと

①　プライバシーの保護、肖像権の尊重　⇒　個人情報を開示しない。事前に承諾を得る。
②　著作権、産業財産権などの尊重　⇒　著作権の許諾
③　情報発信に伴う責任　⇒　人権への配慮、他人への思いやり。

授業における著作物複製利用上の留意点

（新聞、本、ビデオ、CD、テレビ番組等々）

次の条件をすべて満たしていれば許可なく複製できると規定されている。

①　教育を担当するものが
②　授業の過程で使用するために
③　必要とされる限度において
④　公表されている著作物を
⑤　著作権者の利益を不当に侵さない

授業で ICT を活用するために

・簡単なことから ICT を活用してみる
・周囲の先生方と協力しあう
・実践事例は公開・共有する
・情報収集し、研修会等で伝え合う
・生徒たちの反応等を客観的に調査する
・ハード、ソフト等必要なものを要求する
・法律や各種ルールを学校全体で理解する

学校全体でムーブを！授業公務が変わる！

令和３年度　講座番号Ｂ－１７
生徒指導推進研修講座（オンライン）　報告

期　日　令和３年　６月２３日（水）
配　信　秋田県総合教育センター
受講者　教諭　　前　田　　真

１　研修の目標

不登校・いじめをはじめとする生徒指導上の諸課題に対応するために、必要な理論及び実践の在り方等について理解を深める。

２　日程と内容

9:30	受　　付
10:00	＜開講行事・オリエンテーション＞ **挨　拶** 秋田県総合教育センター　主幹　赤　坂　　亨
10:15 12:00	＜講義・演習＞ **「いじめ問題の危機管理」** 神田外語大学　客員教授　嶋　﨑　政　男
	昼　食・休　憩
13:00 14:30	＜講義・演習＞ **「保護者との良好な関係を築く」　―クレーム問題から考える―** 神田外語大学　客員教授　嶋　﨑　政　男
	休　　憩
14:40 16:15	＜公開講演＞ **「不登校への対応」** 神田外語大学　客員教授　嶋　﨑　政　男

３　研修内容

＜講義・演習＞「いじめ問題の危機管理」

１　いじめの定義（いじめ防止対策推進法　第２条＝３要件）
(1)一定の人間関係
(2)心理的・物理的な影響を与える
(3)心身の苦痛を感じる

２　いじめの類型（いじめ発生の心理機制）
(1)無意図型：被害感情を最優先する
(2)遊び・ふざけ型：加害者にいじめ認識ないが、被害者は身体的・心理的苦痛を感じる
(3)攻撃型：いじめの意図をもった攻撃
(4)犯罪型：刑法等に抵触する犯罪行為

３　いじめ問題の危機管理
(1)リスクマネジメント　　：未然防止
(2)クライシスマネジメント：危機対応
(3)ナレッジマネジメント　：再発防止

４　いじめ問題の歴史
(1)第Ⅰ期：仕返し事件多発期
(2)第Ⅱ期：校内暴力混在期
(3)第Ⅲ期：社会問題化

(4)第Ⅳ期：「法化社会」でのいじめ問題

５　全校体制で取り組む「いじめ問題」　　※「一人で何もかもできる人はいない」

(1)組織マネジメントの推進（５Ｓ）

①戦略共有：Strategy：理念・方針考え方の共通理解　　：いじめをなくすために
②制度確立：System：：規則・規程・計画等の策定・実施　：どのような制度を作り
③組織整備：Structure：組織・役割・連携等の整備　　：どのような組織を整え
④力量向上：Skill：各人・部署・全体の力量向上　　：生徒指導力を身につけ
⑤人材活用：Staff：校内外の人材活用・協働　　：チームとして進めるか

(2)いじめ把握の３ルート

①訴え→児童生徒との人間関係の深化、援助要請力の向上
②発見→教師の感性（小さなサインに大きな問題）　※ハインリッヒの法則
③情報提供→同僚・保護者・地域住民等との連携強化

＜講義・演習＞「保護者との良好な関係を築く」　―クレーム問題から考える―

１　保護者との良好な人間関係づくり＝「３Ｒ」

(1)リスペクト
(2)リレーション
(3)リソース

２　良好な関係づくりの基礎の基礎

(1)保護者理解：保護者のアセスメント
(2)日ごろからの関係づくり：３つの「共かん」＝「共 汗」「共 歓」「共 感」
(3)「ジョハリの窓」：開放・盲点・秘密・未知→自己開示とフィードバック
(4)「３Ｒ」：リスペクト・リレーション・リソース

３　信頼関係が崩れるとき：「よ く な い か か わ り」

（よ）呼び出しを　職場の友に　告げられて　　：直接保護者に伝える
（く）暗い門　顔を隠して　くぐり来ぬ　　：リスペクト
（な）並びいる　教師の数に　指を折る　　：「被告席」に座らせない
（い）いい子とは　思いませんと　つい涙　　：先に「良い点」を話す
（か）過去でなく　今できること　知りたくて　　：「今できること」を共に考える
（か）輝く言葉　家では　光らず　　：助言は具体的にわかりやすく
（わ）別れ際　ごくろうさんの　声もなく　　：玄関まで見送り労をねぎらう
（り）理屈なら　とうにたっぷり　聞き飽きた　　：保護者の声に耳を傾ける

４　保護者の養育態度

(1)溺 愛 型　：自子主義の増加、幼児万能感、自己愛型パーソナリティー障害
(2)放 任 型　：ミュンヒハウゼン症候群、取り戻し行動
(3)過支配型　：「私は親に殺された」「冷たい親」「毒の親」
(4)バランス型

４　感　想

県総合教育センターのＢ研修講座が新型コロナウィルス感染症の影響により、オンラインでの研修となり、小・中・高・特別支援学校の約４０名を対象に行われた。

生徒指導推進研修ということで生徒指導主事としての立場で参加したが、研修内容は実に有意義かつ実用的な講義であった。しかし、せっかくの大学教授による実用的講義ということを考えると、むしろＨＲ担任を務める中堅的立場の先生方に受講していただいた方が得策であるように感じたのは私だけだろうか。現場での実践という意味で、受講の内容によっては校種や受講対象者を指名制にして、開講すべきではないかと実感した。

令和３年度前期職員研修

新屋高等学校企画研修部

１　研究課題　　「対話」を通した探究的学びを促す授業（展開）の工夫

・周囲と協働して課題解決をする過程において自己の変容を実感させ、学びを深める
・「批判的思考力」の育成を目指し、言語活動の充実を図る。

２　研修会目的

本校では生徒自身の「探究力」の育成を目指し、カリキュラムマネジメントに基づいた授業実践を行っているが、今年度は特に言語活動の充実を図り、深い学びを促すため「批判的思考」の育成に焦点を当てた授業実践に取り組む。５月実施のＧＰＳの結果を参考にしながら生徒の「批判的思考力」をいかに育成するか具体的方策を探る。

３　実施日時　　８月３０日（月）　　１５：３０～１６：３０

４　会　　場　　本校　会議室（Zoom）

５　講　　師　　ベネッセコーポレーション　　鈴木　麻夏　氏

令和３年度後期職員研修(互見授業研修会)

企画研修部

１　研究課題　　「対話」を通した探究的学びを促す授業（展開）の工夫

・周囲と協働して課題解決をする過程において自己の変容を実感させ、学びを深める。
・「批判的思考力」の育成を目指し、言語活動の充実を図る。

２　研修会目的
本校では生徒自身の「探究力」の育成を目指し、カリキュラムマネジメントに基づいた授業実践を行っているが、今年度は特に言語活動の充実を図り、深い学びを促すため「批判的思考」の育成に焦点を当てた授業実践に取り組む。さらに、互いに授業参観をすることにより、今年度から環境が整えられたICT機器（電子黒板、タブレットなど）などの効果的な活用方法についての研究をする。

３　実施日時　　１０月１８日（月）～２２日(金)

４　方　　法　　①　公開する授業を設定（１人２コマ程度）する。
公開授業一覧（時間割）に色を付ける。
Gyomu26　企画研修（公開）→　18 公開授業一覧
期限：１０月１３日

②　実施期間中、２コマ程度参観する。（自分の教科と他教科）

③　参観した授業についてグーグルフォームで配信された内容に答え送信する。　※裏面参照
送信期限：１０月２７日

５　互見授業のために
１時間参観することが望ましいが、導入・展開・まとめのどこかに絞って参観することも可とする。

令和3年度互見授業　参観シート

月　　日（　　）　　校時　　年　　組　　教科名

担当　　先生

次の観点について参考になった点を記入してください。全部に答える必要はありません。
このシートは自分の参観メモとして利用してください。参観後、参考なった点は配信されたグーグルフォームにまとめ、送信してください。尚グーグルフォームには参観させれた授業についてそれぞれお答えください。

授業構成（展開・活動・発問）

目標提示	
発問の有効性	
表現活動の工夫 （表現活動設定など）	
クリティカルシンキング育成 につながる活動の工夫	
振り返り	

その他の工夫等

ICT等の活用	
学習の仕方との関連づけ	
板書（構成・文字等の工夫）	
教材・教具等の工夫	

令和3年度　公開授業一覧　　各自、2コマ選んで参観してください

R3.9.1～　　秋田県立新屋高等学校　全日制の課程

	10月18日 月曜日						10月19日 火曜日						10月20日 水曜日						10月21日 木曜日						10月22日 金曜日						授業	LHR	総学探	合計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6				
佐藤緑	古典B 2C		古典B 2B		現文B 3B		古典B 2E	古典B 2A			古典B 2C	総探 2年	現文B 3B		古典B 2D	古典B 2A			古典B 2C	古典B 2B		古典B 2D		LHR 2D	古典B 2B	現文B 3B			古典B 2E	古典B 2D	16	1	1	18
大関由理	国総古 1B	国総古 1C			国総古 1E	国総古 1A			国総古 1B	現文B 3A	国総古 1A	総探 1年	国総古 1D	現文B 3E			現文B 3A				国総古 1E	現文B 3E		LHR 1A			現文B 3A	国総古 1C		国総古 1D	15	1	1	17
佐藤雅子		古典B 3A	古典B 3D			古典B 3E	古典B 3D		古典B 3B		キャリア 3A	総探 3年		古典B 3A		古典B 3B		古典B 3C		古典B 3C			キャリア 3A	LHR 3A	古典B 3E	古典B 3D		古典B 3C		古典B 3B	15	1	1	17
齊藤明子	国総現 1C		国総現 1A	現文B 2D		国総現 1B	現文B 2D		国総現 1D		現文B 2E	総探 1年	国総現 1E		国総現 1C	国総現 1D				現文B 2D				LHR 1B	国総現 1B	現文B 2E			国総現 1A	国総現 1E	15	1	1	17
阿部由佳利			現文B 2A		現文B 3D	現文B 2C	現文B 2B	現文B 3C			現文B 3D	総探 2年		現文B 3C	現文B 3D		現文B 2B		現文B 2A	現文B 2C			現文B 2B			現文B 2A			現文B 2C	現文B 3C	15	0	1	16
黒澤みどり		世史B 3CD	現社会 1C		世史B 2CD				世史B 2CD	地理A 3CD		総探 1年			現社会 1A	世史B 3CD		現社会 1B			現社会 1A		地理A 3CD	LHR 1C	世史B 3CD	世史B 2CD		現社会 1B		現社会 1C	14	1	1	16
三浦貴子	地理B 2E	地理B 3CD			地理B 2CD	☆探究社 3BCD	地理B 3E		地理B 2CD		キャリア 3A	総探 3年				地理B 3CD		地理B 2E	地理B 3E		地理B 2E		キャリア 3A		地理B 3CD	地理B 2CD			☆探究社 3BCD		15	0	1	16
神居正暢	日史B 3B	日史B 3CD		日史B 2B	日史B 2CD				日史B 2CD	世史A 3CD		総探 3年	日史B 2B			日史B 3CD		日史B 3B					世史A 3CD	LHR 3C	日史B 3CD	日史B 2CD		日史B 3B		日史B 2B	14	1	1	16
秋山甲子郎			世史A 3E			☆探究社 3BCD				世史A 3CD	世史A 3B	総探 1年			世史A 3E	探究社 3A		世史A 3A		世史A 3B	世史A 3A		世史A 3CD					探究社 3A	☆探究社 3BCD		12	0	1	13
渡邉千尋		現社会 1D		現社会 1E	日史A 2A									日史A 2A		現社会 1E	現社会 1D														6	0	0	6
高橋典子	数学Ⅰ 1A	数学Ⅱ 3B			数学Ⅱ 3C	数学Ⅱ 3A		数学Ⅰ 1E	数学Ⅱ 3C			総探 3年	数学Ⅱ 3D	数学Ⅱ 3B			数学Ⅱ 3C	数学Ⅰ 1E	数学Ⅰ 1A	数学Ⅰ 1E		数学Ⅱ 3D	キャリア 3A		数学Ⅱ 3B	数学Ⅱ 3A		数学Ⅱ 3D		数学Ⅰ 1A	18	0	1	19
石塚道康		数学Ⅲ 3E	数学A 1D			数学A 1C		数学A 1A	数学Ⅲ 3E		数学A 1E			数学A 1C	数学A 1B		数学Ⅲ 3E			数学Ⅲ 3E	数学A 1D		数学A 1A				数学Ⅲ 3E	数学A 1E		数学A 1B	15	0	0	15
佐々木摂也		数学B 2D	数学Ⅰ 1B	数学Ⅱ 2E				数学Ⅱ 2E		数学Ⅰ 1D	数学B 2B		数学B 2C	数学Ⅰ 1B	数学Ⅰ 1D				数学B 2B	数学Ⅱ 2E		数学Ⅰ 1B	数学B 2D		数学Ⅱ 2E	数学Ⅰ 1D	数学B 2C				16	0	0	16
白沢充	数学Ⅰ 1A		数学Ⅰ 1B		数学Ⅰ 1C			数学Ⅰ 1E		数学Ⅰ 1D		総探 1年		数学Ⅰ 1B	数学Ⅰ 1D		数学Ⅰ 1C	数学Ⅰ 1E	数学Ⅰ 1A	数学Ⅰ 1E		数学Ⅰ 1B			数学Ⅰ 1C	数学Ⅰ 1D				数学Ⅰ 1A	15	0	1	16
打矢景	数学Ⅱ 2B	数学B 2E			数学Ⅰ 1C	数学Ⅱ 2A	数学Ⅱ 2C	数学Ⅱ 2B			数学Ⅱ 2D	総探 2年	数学Ⅱ 2D	数学Ⅱ 2C		数学B 2E	数学Ⅰ 1C				数学Ⅱ 2C		数学Ⅱ 2A	LHR 2C	数学Ⅰ 1C		数学Ⅱ 2D		数学Ⅱ 2B		16	1	1	18
阿部大輔			生物基 1E		生物 2E	生物基 1D		生物基 1C		生物基 1A		総探 2年				生物基 1B		生物基 1A	生物 2E	生物基 1D		生物基 1E		LHR 2E		生物基 1D	生物基 1C		生物基 1B		13	1	1	15
船木喜夫	物理 3E	社情報 1E		社情報 1D	物理 2E					物理 3E	社情報 1D	総探 1年	物理 3E		物理、物基 2E				物理 2E				社情報 1E					物理、物基 2E		物理 3E	12	0	1	13
岸由美	地学基 2D				化学 3E			地学基 2C			キャリア 3A	総探 3年		地学基 2D		地学基 2B		化学 3E			地学基 2B		キャリア 3A		地学基 2C	化学 3E					11	0	1	12
高橋健			化学 2E	科学生活 2A		生物 2B	科学生活 2A			生物 2C	キャリア 3A	総探 3年		生物 2B	物理基 2E		生物 2D	生物 2C					化学 2E		生物 2D			物基 2E		科学生活 2A	14	0	1	15
小藤弘美	生物 3E			生物 3B			生物 3C		生物 3D	生物 3E		総探 3年	生物 3E		生物 3B		生物 3D			生物 3D		生物 3C	生物 3B				生物 3C			生物 3E	13	0	1	14
樹岡直志			体育 2CD	体育 3DC		体育 1E		体育 3AB		体育 2E		総探 3年	保健 2A	体育 1E		体育 2CD	体育 2E		体育 3AB		体育 3DC	保健 2C		LHR 3B		体育 1E		体育 2CD		体育 2E	15	1	1	17
前田真	スポⅡ 3A				体育 1AB		体育 1CD		体育 2AB			総探 1年	体育 1AB		スポⅡ 3A		保健 1E	体育 1CD		体育 1AB		体育 2AB	保健 1C		スポⅡ 3A		体育 2AB		体育 1CD		14	0	1	15
島内美希				体育 3DC		体育 1E	体育 1CD		体育 2AB			総探 1年		体育 1E		保健 1A	保健 1B	体育 1CD	保健 1D		体育 3DC	体育 2AB		LHR 1D		体育 1E	体育 2AB		体育 1CD		14	1	1	16
武田真由美		※ スポⅡ 2A	体育 2CD		体育 1AB			体育 3AB		保健 2D	体育 3E	総探 2年	体育 1AB		※ スポⅡ 2A	体育 2CD		保健 2B	体育 3AB	体育 1AB		保健 2E	体育 3E						体育 2CD			15	0	1	16
湯澤寛										体育 2E	体育 3E						体育 2E						体育 3E							体育 2E	5	0	0	5
佐々木渉	音楽Ⅰ 1E	※音楽Ⅱ 2A			◇音楽Ⅲ 3A	☆音楽Ⅱ 3BCD	◇音楽Ⅲ 3A		音楽Ⅰ 1C	音楽Ⅰ 1B		総探 2年	◇音楽Ⅲ 3A	音楽Ⅰ 1D	※音楽Ⅱ 2A		地コミ 2A	地コミ 2A	音楽Ⅰ 1C		音楽Ⅰ 1B	音楽Ⅰ 1A			音楽Ⅰ 1E	音楽Ⅰ 1A	音楽Ⅰ 1D		☆音楽Ⅲ 3BCD	◇音楽Ⅲ 3A	20	0	1	21
菅原真紀子	美術Ⅰ 1E	※美術Ⅱ 2A			◇美術Ⅲ 3A		◇美術Ⅲ 3A		美術Ⅰ 1C	美術Ⅰ 1B		総探 1年	◇美術Ⅲ 3A	美術Ⅰ 1D	※美術Ⅰ 2A				美術Ⅰ 1C		美術Ⅰ 1B	美術Ⅰ 1A		LHR 1E	美術Ⅰ 1E	美術Ⅰ 1A	美術Ⅰ 1D			◇美術Ⅲ 3A	16	1	1	18
嵯峨育生	C英Ⅲ 3D		英表Ⅱ 3C	C英Ⅲ 3A				C英Ⅲ 3D	C英Ⅲ 3A	英表Ⅱ 3B		総探 3年	英表Ⅱ 3C	C英Ⅲ 3D		英表Ⅱ 3E			C英Ⅲ 3D	C英Ⅲ 3A	英表Ⅱ 3B			LHR 3D			C英Ⅲ 3D	英表Ⅱ 3E	C英Ⅲ 3A		15	1	1	17
佐藤浩一		C英Ⅰ 1B		英表Ⅰ 1C			C英Ⅰ 1B	C英Ⅰ 1D		英表Ⅰ 1E				英表Ⅰ 1A					英表Ⅰ 1E		英表Ⅰ 1C	C英Ⅰ 1D			C英Ⅰ 1D		C英Ⅰ 1B	英表Ⅰ 1A			12	0	0	12
三浦朋子	C英Ⅱ 2A	英表Ⅱ 2B		C英Ⅱ 2C		英表Ⅱ 2D			英表Ⅱ 2E		C英Ⅱ 2A	総探 2年	英表Ⅱ 2E		C英Ⅱ 2C		地コミ 2A	地コミ 2A	英表Ⅱ 2D	C英Ⅱ 2A			C英Ⅱ 2C			英表Ⅱ 2B			C英Ⅱ 2A	C英Ⅱ 2C	16	0	1	17
青山進		C英Ⅰ 1A		英表Ⅰ 1B	英表Ⅰ 1D		C英Ⅰ 1A		C英Ⅰ 1E		C英Ⅰ 1C	総探 1年	C英Ⅰ 1C		C英Ⅰ 1E		C英Ⅰ 1A					C英Ⅰ 1C	英表Ⅰ 1B				C英Ⅰ 1E	英表Ⅰ 1D			13	0	1	14
高崎雅恵	C英Ⅲ 3C		C英Ⅲ 3B	C英Ⅲ 3E			C英Ⅲ 3B	C英Ⅲ 3E			C英Ⅲ 3C	総探 3年			C英Ⅲ 3C		C英Ⅲ 3B	英表Ⅱ 3D	C英Ⅲ 3C		C英Ⅲ 3E	C英Ⅲ 3B		LHR 3E		C英Ⅲ 3C	C英Ⅲ 3B		C英Ⅲ 3E	英表Ⅱ 3D	16	1	1	18
澁谷善洋		英表Ⅱ 2C			C英Ⅱ 2B	C英Ⅱ 2E		C英Ⅱ 2D		C英Ⅱ 2B		総探 2年		C英Ⅱ 2E	C英Ⅱ 2B		英表Ⅱ 2C	C英Ⅱ 2D					C英Ⅱ 2D	LHR 2B			C英Ⅱ 2E	C英Ⅱ 2B	C英Ⅱ 2D		13	1	1	15
早坂薫	家庭基 1D		♪子ども発保 3A	家庭基 1A			家庭基 1E			♯フードデ 2A	家庭基 1B	総探 2年				家庭基 1C	地コミ 2A	地コミ 2A	家庭基 1B			♪子ども発保 3A	家庭基 1D		家庭基 1A	家庭基 1C		♯フードデ 2A	家庭基 1E		16	0	1	17
佐藤博之			♪ビジ実 3A		◇ビジ情 3A	☆情報処 3BCD	◇ビジ情 3A			♯簿記 2A		総探 2年	◇ビジ情 3A				地コミ 2A	地コミ 2A				情報処 2A	♪ビジ実 3A		LHR 2A	情報処 2A			♯簿記 2A	☆情報処 3BCD	◇ビジ情 3A	14	1	1	16
小野香子								社情報 1B	社情報 1A	社情報 1C										社情報 1C						社情報 1B	社情報 1A				6	0	0	6

（１）授業構成（展開・活動・発問）について次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）	（２）（１）で印をつけた項目について良かった点を記入してください。（箇条書き可）	参観した教科
発問の有効性	生徒の解答をうまく引き出している	英語
	自分自身に関連した事項に結びつけながらの発問。今回の単元自体が自分自身を中心に考えながらできる教材であったが。	国語
	身近なものに関連づけての発問。	商業
	クラス生徒の様子を良く把握し、発問と回答のタイミングが良かった。	情報
発問の有効性, 表現活動の工夫（表現活動設定など）	タブレットを用いて自分の考えを書き込みすると同時に他の人の考えも見ることができる為、他者と同じような表現にならないように生徒自身が工夫していた。	芸術
	クロームブックの使わせ方　電子黒板の使用の仕方	国語
発問の有効性, 表現活動の工夫（表現活動設定など）, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	PCを使って取り組むことにより、自身があまり無い内容にもチャレンジしやすくなっている気がした。また、視聴覚教材を用いて、イメージしやすくなっていた。色々な角度から検討できる素材であった。	英語
	教科書の文章を読み、そこから５Ｗ１Ｈの観点を利用し「問い」作りをさせていた。また、作成した「問い」に対する回答も用意させ、「思考・判断・表現」力の育成を目指していた。	理科
発問の有効性, 表現活動の工夫（表現活動設定など）, 振り返り	インターネットを利用し、現代語訳を全員が共有できる形で示されていたのが効果的であると感じた。板書の際に「原文」「現代語訳」「文法」を一つの黒板に示そうとすると、ポイントが分散して生徒が躓いてしまいやすくなる。緑先生の授業では、二重敬語の部分や補助動詞の活用など、大事なポイントに絞って板書が示されていたので、生徒にとって視覚的に理解しやすかったと思う。	国語
発問の有効性, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	薬物乱用防止の単元で、人間の脳がとてもだまされやすいものであることを、錯視の図などを電子黒板で見せることによって生徒の興味関心を引きつけ理解に導いていた。	保健体育
	ICT機器を活用し、テンポ良く時間を区切りながら授業が進行していたため、生徒が迅速に作業に取り組んでおり、またそのような姿勢が身についている。	理科
	中学校の既習内容に疑問を持たせることで、電気分解を様々な観点で見直すきっかけになっていた。	理科
クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	難易度の違う課題を与え、他の生徒の意見をききながら取り組ませている	数学
表現活動の工夫（表現活動設定など）, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	次に答える生徒を生徒が指名することで、常に次に当たるのは自分かも知れないという緊張感をもって授業に臨んでいる。	英語
	率先してタブレットを使用し、意見交換できる場を提供していた。	芸術
	ゴール（達成すべき技術）を提示 ⇒”達成するためにどのようにしたら良いか”をグループで話し合い ⇒さまざまな意見を実践し、分析 ⇒新たな課題から修正 ⇒解決のために考えをさらに深めていく という流れができていた。	保健体育
	各自がそれぞれノート記入などの作業を行っている中で、タイミングよく一斉に電子黒板に注目させる場を設けることにより、全員の意識を一カ所に集中させる良い機会となっていた。それが次の作業へのスムーズな取り組みに繋がっていた。	国語

（１）授業構成（展開・活動・発問）について次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）	（２）（１）で印をつけた項目について良かった点を記入してください。（箇条書き可）	参観した教科
表現活動の工夫（表現活動設定など）	プレゼンテーションの手法を取り入れていた	英語
	例文を参考にするのではなく、自分の言葉で表現しようとしていたのがよかった。	
	ペアワークが活発にさせるためのペア組変えがスムーズであった。（2列セットで片一方の生徒のみ席を移動させる。）そのため、活動の最後の法では生徒が自信を持って発言している様子が見られた。	
	クロムブックで生徒が調べまとめたシートの発表	地歴公民
	模擬選挙に向けて、一人一役割り当て活動している点	
	資料を電子黒板に提示して書き込み箇所を分かりやすく指示していた。	
表現活動の工夫（表現活動設定など）	導入で、ゲーム感覚で自分の考えを述べやすい雰囲気。他の人の意見と関連づけて自分の意見を述べさせている点も良いと思った。	理科
	グループによる調べ学習の発表授業であった。発表までにグループでの話し合いが行われ内容を検討していると思う。そこで協働性や批判的思考が養われたと推察される。生徒が主体となった授業であった。	
グループ活動	席の移動可として、友達同士で問題を解いていたので、ストレスなく問題に集中できていた。	数学
活動と講義形式のメリハリ	演習形式への前段階の作り方が上手であった。	商業
授業の雰囲気	生徒が発言しやすい雰囲気を作っている（普段から生徒との良い関係が感じられた）	理科
振り返り	記録を継続することによって、生徒が自分の技術向上を客観的に感じることができる。	芸術
	目標を明確に提示し、振り返りシートに目標への評価を書き込ませていた点	国語
電子黒板の活用	資料や課題や解説の提示方法。黒板との併用が上手い。	数学
目標提示	明確な課題の提示	芸術
	具体的に本時で何を身に付ければ良いかわかる目標であった。	数学
	本時の目標が明示されていた。	地歴公民
	目視させながらの課題提示	
目標提示, 発問の有効性	理解して計算に慣れる目標。いつ学習した項目かの復習。	数学
目標提示, 発問の有効性, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	問いの作成と解答の提示（こちらは宿題）	理科
目標提示, 発問の有効性, 表現活動の工夫（表現活動設定など）	・黒板に提示してある。 ・生徒の進度差がある中、的確に次の活動への発問や指示、解説がなされており生徒の思考や作業の途切れがなく進められていた。 ・テーマに関する環境作り（音楽、ＩＣＴ、事前のプリント等）の事前準備が丁寧になされており、生徒がそれに触発されて生き生きと表現活動を行っていた。	芸術
目標提示, 発問の有効性, 表現活動の工夫（表現活動設定など）, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	実習だったので、生徒の動きが活発かつ自主的で、とても良かった。	家庭

（１）授業構成（展開・活動・発問）について次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）	（２）（１）で印をつけた項目について良かった点を記入してください。（箇条書き可）	参観した教科
目標提示, 表現活動の工夫（表現活動設定など）	・「主題を捉える」ために、授業ノートや教科書を読み返すことになり、これまでの学習の総復習となっていた。 ・主題を付箋に短くまとめるための言葉選びに真剣に取り組む生徒の姿が印象的だった。	国語
目標提示, 表現活動の工夫（表現活動設定など）, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫	カードゲームが考える訓練になった。与えられたリソースを利用して課題解決をすることで、普段意識したことがない立場から物事を考えると、視野が広がる感じがした。	理科
目標提示, 表現活動の工夫（表現活動設定など）, クリティカルシンキング育成につながる活動の工夫, 振り返り	目標提示とともに日付も確認させ取り組んでいる期間(時間)が分かるようになっていた。ある生徒から「毎日練習したい」という声が出た際、全体の話し合いになるように話を広げさせていた。練習・確認・まとめなどが生徒の状態に合わせて繰り返し展開され、集中力を持続させていた。	芸術
	落ち着きのある学習環境でした。	英語
	教科愛に溢れた授業でした。	地歴公民

（３）その他の工夫次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）	（４）（３）で印をつけた項目について良かった点を記入してください。（箇条書き可）	参観した教科
ICT等の利用	最初の提示と生徒が困っているとき、効果的なタイミングで活用していた。	英語
	クロームブックを用いることで生徒が積極的に活動していた。	
	タブレット端末を使用しての授業。クラスルームを利用して付箋を貼り付け、お互いの意見を確認させていた。	芸術
	・検索ツールの活用	国語
	本時の流れや目標などを電子黒板で提示し、意識化を図っている点	
	電子黒板での提示の仕方に工夫や動きがみられ、単に便覧を見るよりも数段楽しく分かりやすく知識を得ることが出	
	クロムブックの付箋の機能を有効に活用していた。とても参考になった。	
	授業中に生徒が挑戦した問題について、それぞれのパソコンを使い提示した。生徒は答え合わせがしやすそうであっ	商業
	講義だけではなく、動画も活用しながら生徒の理解を促していた。	
	写真等を活用し提示することが、学習内容に具体性を持たせることと生徒の内容理解に効果的であった。	地歴公民
	資料を電子黒板を用いて提示していた。	
	授業に関連する人物や事柄を大型モニター？で表すことで、生徒の興味関心を引きつけた	
	錯視の図などは、写真やプリント等の配布によってより、視覚に訴える効果が大きいと感じた。	保健体育
	１グループのプレゼンは短かったが、正にＩＣＴ活用の本道と感じる使い方である。	理科
	電池、電気分解の図を電子黒板で提示しており、分かりやすかった	
ICT等の利用, challenge mind	先生が積極的にチャレンジしている姿をみて、生徒にとって、励みになったと思う。間違っても良いからトライする	英語
ICT等の利用, 学習の仕方との関連付け	生徒が主体的に活動し、生き生きとしていた	地歴公民
	画像の表示・中学での習ったことと一般の話題	理科
	学習プリントの工夫と関連づけ方	国語
	重要なところのみ切り取って表示。２，３人のグループで例題の解答チェックやプリントの問題を解く。丁寧な	数学
ICT等の利用, 教材・教具等の工夫	ジャムボードやドキュメントを利用しての課題作成	芸術
	絵画や彫刻ばかりが美術ではないことに注目させ、生徒に作品について考えさせていた。	
	必要な画面を電子黒板に写し、展開させており、電子の動きをイメージしやすくなっていた。	理科
	タブレットの活用の仕方　カードの効果的な利用	
	カードやICT機器を効果的に活用し、楽しみながら課題に迫っていく授業構成になっていた。	
ICT等の利用, 生徒の授業態度	要点を電子黒板の利用により焦点化していた。発表した生徒以外も授業へ積極的に参加していた。	国語

（３）その他の工夫次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）	（４）（３）で印をつけた項目について良かった点を記入してください。（箇条書き可）	参観した教科
ICT等の利用, 板書（構成・文字等の工夫）	生徒各自がPCを辞書と参考書代わりに利用し目的に合わせた学習を積極的に行っていた	国語
	・電子黒板でしかできない機能を十分に活用していた。 ・板書の色の使い方。関連付けるものは同じ色で書くといった工夫がよかった。	数学
学習の仕方との関連付け	模擬選挙を体験することで、選挙の仕組みを一層理解、定着できるものにしている点	地歴社会
学習の仕方との関連付け, 教材・教具等の工夫	練習と実技テストを連動させて取り組ませ、モチベーションの向上を図っていた。タイミング良く楽器のメンテナンスや購入の話を折り込み興味・関心を高めていた。	芸術
教材・教具等の工夫	単語の読み方をプリントで提示している	英語
	調味料や出汁など、共通で使うものを取りに行くコーナーが各班の中央にセッティングされていて、作業しやすかっ	家庭
	適切な教具を使用している	芸術
	生徒が使用する教具が統一されている	地歴社会
	第2体育館はネットワーク環境が良くないため、ＩＣＴ等の利用が困難であるが、グループごとに活動用のシートを作	保健体育
	・難易度の段階を考慮した問題提示が参考になった。	数学
	無駄な板書がなく指示が明確	英語
	電子黒板の使い方が参考になった	数学
	伝わりやすい表現を用いて教科書の内容を板書していた。	地歴社会
	資料書のページも生徒が確認しやすいように黒板に明記していた。	理科

「総合的な探究の時間」を振り返って

新　屋　高　校
教諭　神　居　正　暢

１　はじめに

平成３０年３月に高等学校学習指導要領の告示があり、「総合的な学習の時間」を新たに「総合的な探究の時間」とし、平成３４年度（２０２２年度）４月１日より実施が決定した。本校では、平成３１年度より移行措置関係規定に基づき、平成３１年度入学生（現３年生）から、教育課程に位置づけ実施とし、秋田県教育委員会より「平成３１・３２年度探究活動等実践モデル校事業」の指定を受け、様々な実践に取り組んできた。

本稿は、カリキュラム・マネジメントと総合的な探究の時間の実践のコアとなった「地域の未来を創造する新屋高校プロジェクト＝Ａｒａｙａ　Ｄｒｅａｍ Ｐｒｏｊｅｃｔ」（以下、ＡＤＰ）を振り返るとともに、最初の卒業生となった現３年生の変容や進路実現等について考察するものである。

２　総合的な探究の時間の実施状況

（１）概要

ＡＤＰ策定の際、本校で身に付けさせたい資質・能力を次のものとし、総合的な探究の時間での目標とした。

◎「知識・技能」
各教科で学習した知識・技能を総合的に関連づけ､活用できるようにする。

◎「思考力・判断力・表現力」
探究の過程において、対話を通して。思考力・判断力・表現力を高められるようにする。

◎「学びに向かう力、人間性等」
自他とのかかわりの中で、現状（課題）を突破する力を身に付けられるようにする。

身に付けさせたい資質・能力の獲得を目指し､各学年段階での探究活動内容は、１年次「地域を知る」、２年次「地域で活動」、３年次「地域に貢献」とした。そして、これらの活動の中核となるのが「対話」であり、「対話」によって育む５つの力「知力・学力」「課題発見力」「課題解決力」「受信力・発信力」「自己実現力」を授業で伸ばすべく、教科毎にでグランドデザインを策定し、探究活動との接続を図った。各学年での活動内容の概要は、次頁の表１である。

（２）１年次の学習活動

１年次は主に「地域を知る」ことに主眼を置いた活動を実施した。当該年度に新設した夏季休業中のα出校日を活用して、ガイダンスと「なまはげ」の起源を探る調べ学習で、本格的に探究活動を開始した。夏休み以降は、「地域の達人講話」「コミュニケーションスキルアップ教室」「図書館利用ガイダンス」など、地域で活動している人材を活用して、地域の現状や課題についての知見を得るとともに、「対話力」の向上に資する活動となった。

９月以降は、探求活動の時間をゼミ形式とし、担当教員の元に、α出校日の際のグループ（興味関心事のテーマ性や進路目標の近似性により編成）が集まり、テーマを決めて、調べ学習を行った。班編制は、興味関心事をとりまとめ「ＩＴ」「医療」「エンターテインメント」「音楽」「海外」「環境」「教育」「芸術」「仕事」「食」「心理」「スポーツ」「流行」「歴史・文化」を大枠とし、各分野の中でさらに、個々の関心事の類似性で３～５名のグループを作らせた。インターネットに頼らず、書籍等の確たる根拠に基づき考察することを指導し、２月の発表を目標に調査を進めまとめさせた。

発表の形式は、白石高校（宮城県）や遠野高校（岩手県）、大館桂桜高校、能代高校等の実践事例を参考とした。各ゼミで教室を左右二手に分けてテーマ毎に配置し、さらに発表を前半と後半、発表する側と聞く側（評価側）を入れ替えて対面させることで、内容理解を深め、相手の発表を受けて自分の考えをさらに昇華させることを企図した。ゼミ発表後に、生徒の発表やゼミ担当教員の所感を元に、ゼミ毎に代表班を決め、体育館で全体発表を実施することとした。しかし、新型コロナウィルスの感染拡大がはじまり、休校措置により、３月に予定していた全体発表の実施は見送られた。

（３）２年次の学習活動

感染予防の観点から、教育活動に様々な制約が課された。特に、探究活動は、「対話」による活動をメインで考えていたことから、生徒が集まることが憚られ、当面の間、思うような探究活動はできない状況にあった。また、休校措置により、活動時数も減ってしまい、年間指導計画を大きく変更せざるを得なかった。また、事業最終年度の成果を確認するための発表も年末には設ける必要があり、時間的な制約もあった。

１年次は、自分の興味関心事を中心に活動を行ったが、２年次からは SDGs の世界的な観点の課題から、生徒にテーマを考えさせた。休校が空けてから、個人の進路や興味関心事が SDGs の１７のゴールのどの分野のものか、あるいは、繋がるものなのかを見定めて、調査研究を進めさせ、夏休み中にレポートをまとめさせた。レポートの構成は、「はじめに」「研究目的」「調査内容」「結果と考察」「今後の課題」「参考文献等」とし、体裁の統一を図った。夏季休業中のα出校日に、探究フェスタを開催した。秋田大学教育文化学部、中澤俊輔先生、荒井荘一先生を招聘して、個人での探究活動で調査や考察の進め方について講義していただいた。作成したレポートは、９月の第１週・第２週に分野毎のゼミで発表した。

個別の発表後に、分野毎のゼミを編成した。構成は、「あきたの地域復興」「あきた

の医療」「あきたの産業」「あきたの経済」「あきたの福祉」「あきたの文化」「あきたの教育」「その他　社会」「その他　自然」とし、１年次に生徒の興味関心事で細分化していたものをまとめるとともに、ＳＤＧｓの視点から本県で考えるべき課題に付いて検証することとした。１０月はグループで設定したテーマについて、調査研究をグループで進めさせ。１１月１７日に中間発表を行った。発表のスタイルは一年次のものを踏襲し、時間を前後半に分け、密を回避するため発表者を教室の４隅に別れさせ、聴衆は流動的に自分の聞きたい発表を聴きに行く形態とした。また、様式の統一を図りポスターセッションの形式とし、模造紙に調査内容をまとめさせた。中間発表での意見交換や疑義の出たものについて、発表後に修正したポスターを１２月１５日に「探究」公開授業研究会で掲示し、当日の指導・助言者と本校職員がポスターを観覧し、内容が良いものに赤シールを貼り付けて評価とした。また、他日、下級生（１年生）にも同様の評価を行わせた。

１～３月については、冬季休業日や学校行事等で時数も限られていたことから、グループでの探究活動を振り返りながら、次年度の自分の探究のテーマについて考える時間とした。

（４）３年次の学習活動

２年生で探究活動等実践モデル校事業が終了した。令和３年度は学校全体の研究課題を「探究」公開授業研究会で指導・助言のあった「批判的思考力」の育成と定めた。

３年生は進路の実現もあることから、個人の探究活動とし、特に、進学者については、各自の目標とする学部や学科・研究内容に関連させて学習を進めるよう指導した。これまでの活動と大きく異なったのは、ＧＩＧＡスクール構想の進展により、生徒一人に一台タブレットＰＣが配付されたことで、１・２年次は、授業内で調査のためスマートフォン一台まで使用を可能とする制約であったが、タブレットで自由に調べ、資料を作成することができるようになった。

７月の段階で、タイトルおよびサブタイトル・研究概要を提出させ google　form で作成した一覧表にとりまとめた。

９～１１月は、就職試験や総合型選抜入試や学校選抜型入試があることから、面接練習でのコミュニケーション能力や、小論文練習での文章能力等、探究活動による対話力の向上に資する学習が中心であった。進路の実現を達成した生徒から、順次、夏休みのスライドをブラッシュアップすべく研究を進めさせた。

大半の生徒が進路を決定したところで、１月１７日～１９日に各クラスで、今年度の各自の探究活動を発表させた。

３　成果と課題

１年次～３年次までの探求活動の内容を『蛍雪時代』掲載の大学等の学部の系統に基づき集計し、進路の実現とリンクさせたものが別表である。学問の分野に偏重があったものが、学年が上がる毎に、ばらつきが見られ、生徒が自分の進路に関連した内容をテーマと

して選択していることが分かる。

１年次は、生徒の興味関心事によってグループ分けしたことから、テーマが興味深いものから、研究対象にならないような内容まで自由な探求活動が行われていた。生徒各自の興味関心事であることからグループ内で闊達な意見交換が行われ、「対話力」の育成を目標とした初年度のねらいを達成できていたと思われる。中には「ハタハタ 」をテーマとした班では、同じ興味関心事であっても班員が、「生態」＝生物学的な調査、「食べ方」＝家政的な調査、まとめと役割分担をしながら課題の積極的に解決に取り組んでいた。

一方で、「地域」の縛りによって無理なテーマ設定となり、結論にまで至らないケースも散見した。一例として「秋田のマンガ・アニメ・ゲーム」がこれにあたる。また、書籍を根拠として考察するよう指導を重ねたにも関わらず、インターネット情報に頼ろうとするものが多く、班につきスマートフォン１台のみ使用を認めたことから、活動が進まない班も散見した。中には、班のテーマが自分の調べたい内容でなかったという生徒の意見もあった。

２年次は、SDGs という明確なテーマが与えられていたことから、１年次に比して、探求活動として相応なテーマ設定がなされた。夏休みまでの「個人」の興味関心事の調査・研究と発表をしたことで､探求活動のサイクルを学年全員が経験したことに意義があった。そして、同質のグルーピングしたことで、テーマが大きなものになり、高校生として向き合うべき課題にある程度到達できていたと思われる。反面、コロナ禍による休校期間が長く、雇用問題、不平等、自殺など、先の見えない将来への不安を暗示するような後ろ向きなテーマ設定が多く見られた。また、ジェンダー問題についてのテーマも多く、トレンドワードに引きずられた印象がある。これらについては、社会問題として、学問系統について０７社会・社会福祉学部系統でカウントしており、２年次の個人が４３％、グループが５０％と群を抜いていることからも分かる。

１２月の「「探究」公開授業研究会にむけて、１１月にポスターセッションを行うことから、パワーポイント等でポスターの作成を行わせた。調査・研究の内容を８～１０枚程度のスライドに分割して模造紙に貼り付けるものであったが、グラフを作成したり、統計から情報を読み取るなど１年次に比べると格段と水準が上がっているものが見られた。

他方で、ポスターセッションで聴衆と対面して説明できる機会であったにも関わらず、発表者は班で２名と限られ、原稿の棒読みに終始している班も多く、プレゼンテーション能力の向上には繋がらなかった。これまでの「対話力」がどちらかと言えば内輪に対してのものであったのに対し、ポスターセッションが、異質なものと触れて対話することで、自己の考えをさらに昇華できる機会であったとすれば、それを逸してしまったことは遺憾であるが、興味関心事という自分の中の課題や問題から一歩出て、社会や世界、そして地域の考えるべき大きな課題に向き合ったのが大きな成果であったと考える。

３年次は､これまでの学習活動を踏まえ､個人の探究活動を年間を通じて行う事とした。これは、９月以降に進路の実現に向けた生徒個々の活動が本格化するので、時間的な制約から夏休み明けまでには一度、レポート等をまとめる必要からの措置であった。進路を見据えたテーマ設定をするよう指導したことから、理系クラスを中心に専門的なテーマが多く見られた。例えば、大学の工学部に進学した生徒が「楽に漕げる自転車～脚の負担が少ない自転車とは？～」というテーマを選定したり、経済学部に進んだ生徒が「コロナ禍に

おける観光業のあり方」と題してマイクロツーリズムについて研究するなど、学校型推薦入試や、総合選抜型入試などで、「志望理由書」や「活動報告書」等に使用できる内容のものであった。学問系統も細分化し、医学・薬学・体育を除く系統に分かれており、向かうべき課題に向き合っていたと考える。特に、文系の社会科学系の生徒のレポートに多く見られたのが、解決策を補助金の新設することで結論づけるものであった。すでに、似たような補助金が存在していたり、現在も給付しているものもあった。より調査の対象を広げるとともに、国・自治体に財源がないことを前提に、課題の解決を目指すよう指導すべきであったと考える。批判的思考力についても、１・２年次に比べると、比較したり、別の分野から課題を見つめてみたりする手法は幾分見られるようになったものの、本校の目指す「批判的思考力」には到達していないと思われる。

４　おわりに

探究活動実施の初年度であり、その都度、様々な変更や修正をしながら３年間の学習活動を終えるとができたが、本校の「総合的な探究の時間」が、これまで以上に、生徒の資質向上と進路実現に資するものにするため、次の点について、次年度以降の課題として提案したい。

（１）探求活動のあり方について

「地域の学校」と本校を位置づけることから、ＡＤＰの方針とその実践力として探究活動が機能すると考えるが、「地域を知る（１年)」「地域で活動する（２年)」までは、教養クラスの「地域コミュニケーション」や生徒会の活動も含めれば、すでに実践しいると思われるが、「地域に貢献する（３年)」の「貢献」の具体的な手法については提示されていない状況である。３年次の探究活動でこれを実践するならば、「貢献」の方法について学校として考えなければならない。

（２）生徒の学習活動について

現３年生は、「興味関心事」からスタートして、最終的に進路にリンクさせるようなテーマ設定をさせた。その中で、探究活動の学問系統がほとんど変わらず、進路と結びついているのは、看護・医療系や保育、福祉などの限られ、一貫して学習活動に取り組めた背景に進路について明確な目標があったからと考える。成果と課題にも記載したが、「班のテーマが自分の調べたい内容でなかった」という生徒も一定数いると思われることから、班編制やグループ学習が効果的に行われるべきであり、個人の探究活動を自由に進めさせた方が、進路にも向かいやすいのではないか。１年次のガイダンスで学習活動の「あきたのなまはげ」のように、グループでの探究活動は、共通の課題について学習するのも一つの手法である。

また、学習段階で、「興味関心」から「地域」、「SDGs」と課題を大きくしていったのが現３年生であるが、例えば２年次に「温暖化」について学習したグループは、

テーマが大きすぎて、一般論の温暖化対策について述べたに過ぎなかった。このことから、「興味関心」から「SDGs」、「地域」の組み替えを行い、テーマ設定の際に、興味関心事が SDGs の１７の世界的目標あるいは、１６９の達成基準につながるものなのかを考えさせ、さらに、それが地域にとってどの様な課題になっているのか、そして、その解決策を提案することまでを本校の探究活動のゴールに設定すべきと考える。

（別表）

	１年次グループ	（%）	２年次個人	（%）	２年次グループ	（%）	３年次個人	（%）	進路	（%）
01　文学部系統	28	17%	0	0%	0	0%	2	1%	2	1%
02　外国語学部系統	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%
03　人文・教養・人間科学学部系統	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	2	1%
04　教育・教員養成系学部系統	14	8%	13	8%	12	7%	12	7%	8	5%
05　法学部系統	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
06　経済・経営・商学部系統	7	4%	1	1%	6	4%	10	6%	22	14%
07　社会・社会福祉学部系統	27	16%	73	43%	84	50%	44	26%	9	6%
08　国際関係学部系統	8	5%	4	2%	0	0%	4	2%	2	1%
09　理学部系統	15	9%	22	13%	25	15%	8	5%	1	1%
10　工学部系統	0	0%	6	4%	9	5%	10	6%	19	12%
11　農・獣医畜産・水産学部系統	0	0%	12	7%	3	2%	3	2%	2	1%
12　医学部系統	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%
13　歯学部系統	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%	6	4%
14　薬学部系統	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
15　看護・医療・栄養化学部系統	5	3%	21	12%	23	14%	31	18%	30	19%
16　家政・生活科学部系統	11	7%	4	2%	0	0%	2	1%	1	1%
17　体育・健康科学部系統	16	10%	11	7%	7	4%	6	4%	0	0%
18　芸術学部系統	9	5%	0	0%	0	0%	4	2%	9	6%
19　その他	28	17%	1	1%	0	0%	27	16%	46	28%
	168		169		169		169		162	

2021年7月2日

新屋高校　先生方小論文研修会

第１　小論文入試の傾向・トレンド

（１）多い出題…格差・貧困・AI・コロナ

※コロナは思った以上に多い…直接的なもの

答案にコロナを絡めるもの

出題例）【医療・福祉系】

●コロナ差別・偏見（ハンセン病患者隔離の歴史と）／新聞記事…旭川医科大

●孤立防止・介護予防交流のコロナによる危機／新聞記事…大阪府立大教育福祉学類

●パンデミック発生時の情報伝達（スペイン風邪→ＳＮＳ）／資料型…山梨大医学部看護学科

出題例）【その他の学部】

●「不要不急」「新たな行動様式」とは／テーマ型…横浜国立大都市社会共生学科

●郊外の在り方・問題（コロナで進む郊外への移住）／資料型…熊本県立大居住環境学専攻

●コロナ禍による生活様式の変化を支える技術…大阪教育大中等教育専攻技術教育コース

＜『コロナ』の考え方とキーワード＞

【１　既存の諸問題拡大＝格差・貧困】

○コロナ禍による平時の問題加速（非正規、シングルマザー）／課題文…島根県立大国際関係学科

【２　グローバル社会の危機＝国家の復権（ロックダウン、トランプ）と国際協調の必要】

○パンデミック下における国家の復権と国際協調／課題文…同（学校推薦）

【３　情報化（ＡＩ，ＳＮＳ）と国家による監視】

○監視カメラやＳＮＳでの炎上による監視に人々が無頓着な理由／課題文…香川大法学部

○安全確保のため自由を放棄する風潮（ＡＩによる信用調査等）／課題文…岐阜大地域科学部

→ＡＩは消費者／企業に『選択』の必要をなくすパラダイムシフトを起こす／課題文…島根県立大地域政策学科

【４　コロナと地球環境⇒SDGs】

○ウイルス蔓延を防ぐ＝未踏の奥地の開発への注意／多様性の維持＝SDGs「15 緑の豊かさ」◎

⇔「１貧困をなくす」「２飢餓をゼロに」「７エネルギー～」との矛盾！！

⇒SDGs は矛盾する目標を同時に達成すること／課題文…北海道大医学部

（２）問題の出し方…①小問を分ける
②題材から『答えるべき課題』を絞る小問作成
⇒採点の精度を上げる＝正解／不正解が明確に

2021年度　北海道医療大学リハビリテーション科学部総合型選抜

課題レポート問題

問題　次の文章を読み，以下の設問（問１、問２）に答えなさい。

“Society 5.0”の基本となる仕組みは、現実の世界からデータを集め、それを計算機の中で処理し、その出力を社会で活用する、というものである。この仕組みの考え方自体は新しいものではない。身近な例で言えば、エアコンが部屋の設定室温を自動的に保っているのもそうである。エアコンは、室温を定期的に測り、エアコンの中のマイクロコンピュータが測った室温と設定室温を比較する。その比較結果に基づいて、エアコンの機能を自動的にオンにしたり、オフにしたりしながら部屋を快適な温度に保つ。社会を支える多くのシステムは、基本的にはこの仕組みで動いている。電力が過不足なく各家庭に届けられるのも、鉄道がダイヤ通りに走るのも大枠ではこの仕組みに基づいている。これを実現したのは、コンピュータによる自動制御であり、情報社会とは、様々なシステムがそれぞれ閉じた世界で、データを収集し、収集したデータを処理し、その結果を活用している社会であるとも言える。

（中略）

昔は、もっぱら、家族や親族および伝統的地域社会がケアを担っていたところ、今では、介護保険等によって、ケアが社会化されつつあるが、コスト的問題や人材不足などで、サービスレベルは十分とはいえない。ICT/AI/ロボットなどを活用して、高齢者の自立的生活を支える支援的生活環境を実現し、家族と社会の介護の負担を軽くすることが重要である。

日立東大ラボ　「Society 5.0 人間中心の超スマート社会」　日経 BP 社　（2018）より抜粋

問１　少子高齢化がさらに深刻化する将来の日本社会では、要介護者が在宅で自立的生活が可能となる住環境が必要となる。この住環境の実現のために、“Society 5.0” の仕組みを利用した具体的な取組みについて、400 字以内で述べなさい。

問２　“Society 5.0”の仕組みの基本的な考え方を踏まえ、あなたが志望する学科のリハビリテーションのあり方について、あなたの考えを 800 字以内で述べなさい。

令和３年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

秋田県立新屋高等学校
第１回授業研究会

「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動に関する研究

令和３年７月６日(火)

受付　　１２：５０～　２階事務室前

研究授業　　１３：１５～１４：０５

１年Ａ組　　コミュニケーション英語Ⅰ

教諭　青山 進　ALT　Stephanie Daugherty

研究協議会　１４：１５～１５：０５　２階会議室

コミュニケーション英語Ⅰ　　学習指導案

実施日時　令和３年７月６日(火)５校時
場　　所　１年Ａ組教室
授 業 者　青山　進、 ステファニー・ドーハテイ
教 科 書　Power On English Communication Ⅰ
（東京書籍）

1　単元名　LESSON２　Sleep in Animals

2　単元の目標
（１）　動物の睡眠について聴いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
（２）　動物の睡眠の特徴について自分の言葉でまとめることができる。
（３）　地域の動物園に対して、より多くの観光客を集めるためのアイディアをわかりやすく伝えることができる。また他者の意見を聴き、それに対する賛否や簡単な感想を述べることができる。

3　単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連
（１）ゆっくりと話される日常的な話題について、必要な情報を聴き取ることができる。
［１年前期　聴くこと］
教科書などの題材を読んで、必要な情報を読み取ることができる。
［１年前期　読むこと］
（２）自分のことや日常生活の身近なことについて簡単な表現で自分の考えを書くことができる。
［１年前期　書くこと］
（３）話す速度、声の大きさなどに注意しながら、自分のことや日常的なことについて簡単な表現で原稿を見ながら発表することができる。　［１年前期　話すこと　発表］

4　単元観
肉食動物、草食動物、海洋動物、渡り鳥を取り上げ、彼らがどのような姿勢・体勢で眠り、どの程度の時間眠るのかについて紹介している。学習した内容を発展させ、睡眠以外の動物の特質についても調べ学習を進めていく。調べ学習の目的を「地元の大森山動物園を活性化させる」とすることで、より積極的な言語活動へつなげていきたい。

5　生徒観
男子１５名、女子１７名、計３２名で構成されている。進路志望が就職から国公立大学まで多岐に渡り、学力の差は大きい。活気があり、興味のある分野に関しては授業への参加意欲が高く、積極的にペアワークなどに取り組むことができる。明るく活発な雰囲気を維持しつつ、並行して学力を付けさせることが課題である。今回の活動を通して、英語で意見などをやりとりする楽しさを体感するとともに、自己表現を行うことについて自信をつけさせたい。

6　単元計画　（総時間１０時間）

導入活動	１時間
本文の内容理解をパート毎に行う	３時間
音読・リテリング活動などのアウトプット活動をパート毎に行う	３時間
学習内容を基に、英語での表現活動やパフォーマンス活動	３時間 （本時３時間目）

7　単元の評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識･理解
・ペアワークやグループワークに積極的に参加している。 ・相手の発表を聞いて、積極的に感想を述べようとしている。	・単元の内容を理解し、伝えたい内容をまとめ、相手に情報を整理して伝えることができる。	・単元の概要や要点を的確に捉えることができる。 ･他者の発表を聴き、理解することができる。	・単元の語彙や表現を身につけている。 ・学習内容を踏まえて、自分の考えを表現する方法を理解している。

8　本時の学習

（1）　目　標

大森山動物園活性のための提言を聴き手にわかりやすく発表することができる。また、相手の発表について感想・意見を述べることができる。

（2）指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	主な評価の観点
Warm-up 1 （3） Warm-up 2 （9）	発声練習。 動物に関する語句について英語で説明する。	・授業へ向かう姿勢を作る。 ･ジェスチャーを使用しないよう指導する。	①
導入 （2）	本時の活動内容・目標を確認する。		①
展開 （３１）	①動物園への提言をペアで発表練習する。 ②８人グループになり、互いに発表しあう。その後質疑応答・評価を行う。 ③感想を述べ合うとともに１番良かった提言を選ぶ。 ④代表ペアが前に出て発表する。	・なるべく原稿を見ないで、聴き手を意識して発表するよう助言する。 ･聴く側は、良かった点などをメモする。 ･積極的に感想を述べたりするように指示する。 ･クラス全体にしっかり伝わるように、アイコンタクトや声の大きさに配慮させる。	①②③④ ･聴き手を意識した発表を心掛けているか。 ･自信を持ってしっかり感想を述べているか。
まとめ （5）	本時の活動に関して自己評価を行う。	･一番印象に残ったことを中心に書くように指示する。	①　②③④

指導案についてご指摘いただいたこと

〇若有先生から
　８人グループでの発表後の質疑応答・評価について

　→英語で実施する予定です。「良かった点」「次回へのアドバイス」等の FORMAT を用意します。
　　１番良かった提言を選ぶ際の評価の観点は用意しませんが、前述した FORMAT で代用します。

〇英推班から

・４単元観の表現について　→　表現を訂正しました。
・５生徒観の表現について　→　訂正しました。
・８本時の学習（１）の表現について　→　表現を訂正しました。
・８本時の学習（２）８人グループよりも４人グループが適切であるについて
　→世界の動物園をあらかじめ４つ選び、その動物園を参考にペアで協力して提言を考えさせました。人数は３人または、４人１グループのほうが良いと考えますが、生徒は初めての発表であるため、今回は２人で発表させ、また、違う動物園を担当した４ペアを１グループにしました。問題も出てくるかと思われますが、８人１グループで実施したいと考えております。
・８本時の学習（２）「なるべく原稿を見ないで」について
　→生徒はグーグルスライド等を使用して、キーワードや画像等を提示しながら発表します。スライドや印刷物のキーワードや画像を参考にすることで原稿を見ないで発表して欲しいと考えております。

令和３年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

秋田県立新屋高等学校
第２回授業研究会

「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動に関する研究

令和 3 年 12 月 17 日(金)

受付　　１２：５０～　２階事務室前

研究授業　　１３：１５～１４：０５

２年Ｅ組　コミュニケーション英語Ⅱ

教諭　澁谷 善洋　ALT　Stephanie Daugherty

研究協議会　１４：１５～１５：０５　２階会議室

第２学年Ｅ組コミュニケーション英語Ⅱ学習指導案

日　時：令和３年 12 月 17 日(金) 5 校時
場　所：2 年 E 組教室
対　象：2 年 E 組
授業者：澁谷　善洋、ステファニー・ドーハティ
教科書：Fit English Communication II

1　単元名　LESSON　9　AI and Our Future
2　単元の目標
（1）　AI について聴いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
（2）　AI について自分の考えをまとめることができる。
3　単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連
（1）　日常的な話題や社会的な話題に関する英文を聞き、要点や詳細を正しく捉えることができる。ゆっくりと話される日常的な話題について、必要な情報を聴き取ることができる。
［２年後期　聞くこと］
（2）つながりを示す語句に注意して文章を読み、論理の展開を把握することができる。
［２年後期　読むこと］
（3）社会的な話題について、構成に配分しながら自分の意見を書くことができる。
［２年後期　書くこと］
（4）日常的な話題や社会的な話題について構成を意識しながら自分の意見をまとめ、既習事項を用いて発表することができる。　［２年後期　話すこと　発表］
4　単元観
AI についての基本的な知識と共に、それが私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかについて、利点だけではなく、リスクも共に紹介している。これからの世界に生きる生徒達が AI というものについて一度考えてみる機会としたい。
5　生徒観
男子２０名、女子１３名、計３３名の理系クラスである。積極的に英語を使用しようとする気持ちが見え、またタブレットを用いた活動にも意欲的に取り組む。理系クラスであることを意識し、テクノロジーと我々の生活について考えさせたい。

6　単元計画　（総時間８時間）

導入活動	１時間
本文の内容理解	４時間
学習内容を基に、英語での表現活動やパフォーマンス活動	３時間 （本時１時間目）

7　単元の評価規準

Ａコミュニケーションへの関心・意欲・態度	Ｂ外国語表現の能力	Ｃ外国語理解の能力	Ｄ言語や文化についての知識・理解
・ペアワークやグループワークに積極的に参加している。 ・相手の発表を聞いて、積極的に感想を述べようとしている。	・単元の内容を理解し、伝えたい内容をまとめ、相手に情報を整理して伝えることができる。	・単元の概要や要点を的確に捉えることができる。 ・他者の発表を聴き、理解することができる。	・単元の語彙や表現を身につけている。 ・学習内容を踏まえて、自分の考えを表現する方法を理解している。

８　本時の学習

（１）　目　標

他者の意見を基に、「人間にしかできないことは何か」という問いに対する自分の意見とそれを支える根拠を表現する。

（２）指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 （１５）	本文の内容についてペアで QA を行う。 本時の活動内容・目標を確認する。 To write about “What can only humans do?”	・日本語を介さないペアワークをさせる。	
展開 （３０）	①「AI による自動運転車を使いたいか」という問いに対して、Yes/No に分かれて、ジャムボードに書き込む。 ② 自分と逆の立場の意見を確認し、その意見に対する反論を考え、Google ドキュメントに書き込む。 ③ 「AI ドクターに診察してほしいか」という問いに対して同様の活動を行う。 ④ 「人間にしかできない仕事は何か」という問いに対する自分の考えをまとめる。 ⑤ 作成した Google ドキュメントを Google classroom を用いて提出する。	・自由に書き込ませる。ALT も自分の考えを書き込み、生徒へのヒントとする。 ・ペアで意見の１つを取り上げ、考えるよう指示する。 ・意見と根拠をはっきりと明示するよう指示する。 〔評価〕 提出されたドキュメントを評価する。	B
まとめ （5）	ALT による全体に対するコメントを聞く。		

令和３年度　秋田県立秋田高等学校校内授業研究会
兼　ＩＣＴ活用推進モデル校事業中間発表会
参加報告

大関　由理

日　時　　令和３年１１月１１日（木）
　　１２：５０～１３：４０　全体会（ＩＣＴ活用推進概況・モデル校事業中間発表）
　　１４：００～１４：５５　授業参観

研究テーマ　生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践
　　～他者と協働し、主体的に課題を解決する能力の育成を目指して～

授業改善の重点課題
①主体的な課題解決を促すための「主発問」「補助発問」の提示
②問いを解決するための「他者との協働」の在り方の工夫
③生徒の思考力・判断力・表現力を育むための「言語活動の充実」

【全体会】
○校長挨拶
①ＩＣＴを活用するにあたっては、制約を少なくし、自由に使わせている。
②ＩＣＴはツール、文房具として見ている。効率化、能率性を重視する。
③ＩＣＴは使ってこそ価値がある。トラブル前提、問題があったら全員で解決する。
④「ツールに過ぎない」という言い方はしない。使いこなす力をつけさせていくのが我々の役目である。

○ＩＣＴ活用推進概況・モデル校事業中間発表
・クラスルームの活用により、生徒・教師間の連絡が密になり、提出忘れがなくなった。
・アンケートアプリを活用している。
・問題があったらみんなで解決していこうという姿勢。
・ルールはシンプルに。生徒も教師も自由に活用していけるゆとりと遊びが必要。
・クロムブックは原則として、各自、卒業まで常時管理するものとする。
・クロムブックとＡＣアダプタは持ち帰り、充電を基本とする。
・クロムブックで経験した不具合→Ｗｉ-ｆｉがつながらなくなる→目下８０台修理中
・アプリを使いこなせない生徒群に不満が多い。
・教師にも生徒にも利用しやすい環境が保障され、起こる問題には臨機応変に、が基本。
・今後もツールとしてどんどん活用し、メリットも課題も全員で共有する。

【授業参観】
〇国語「古典」大鏡（花山院の出家）
内容　「大鏡」「栄花物語」を比較読みし、粟田殿の役割について考える。
【参考になったこと】
・グループでの話し合いに､クロムブックのジャムボード付箋の編集機能を活用していた。
・「今日の流れ」のプリントに学習内容をまとめさせていた。
・電子黒板にはグループ毎の付箋を提示し、話し合いの内容を視覚化していた。
・教科書本文は模造紙に書いて壁に貼り出し、ポイント部分を随時マークしていた。
・「本時の目標」を疑問形で提示していた。
・生徒の話し合いの時間を十分に設けていた。
・発表させる際は、グループにあててグループ代表が答えるという形態だった。
・発表の要点を即座に板書し、つながりを指摘していた。

〇 数学「数学ＩＡ」図形と計量　三角形への応用　空間図形への応用
内容　空間図形のいろいろな計量問題を解く。
・グーグルの数学アプリを活用。空間図形を分割するところを電子黒板で繰り返し見せていた。
・難易度の段階毎の問題を準備し、グループで話し合いながら解答させていた。

〇家庭「家庭基礎」生涯を見通した経済計画
内容　キャッシュフロー表の作成をとおして、収支計画の意義を考える。
・ＣＦ表を作成するにあたり、クロムブックの電算機機能を活用していた。

〇総合的な探求の時間　「知の探求」グループ研究～発表スライド「背景・目的・方法」の作成～
内容　各グループが設定した研究テーマに基づいた発表スライドを作成し､相互発表する。
・クロムブックのスライド編集機能を使って、班員と共同で編集していた。
・電子黒板にはグループで作成したスライドを映し出していた。
・ペア活動で、スライドを見ながら説明し、質疑応答し合っていた。

※生徒は常にクロムブックを携帯し、いつでも使えるようになっていた。
※電子黒板が大きく、とても見やすかった。
※クロムブックは全ての教員に配付されているわけではないとのことだった。